

## 「V + 着」と〈V + テイル〉の対照研究 (十)

時 衛国

日本語教育講座

### A Contrastive Study of “Verb + Zhe” and “Verb + Teiru” (x)

Weiguó SHI

Department of Teaching Japanese as a Foreign Language, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

#### 要約

本研究は中国語の「着」と日本語の〈テイル〉の用法と文法的機能について対照言語学的に考察したものである。「着」と〈テイル〉は、動的状态と静的状態をいずれも描写することができるという点では大体共通しているが、連用修飾語にも用いられ、否定命題とも共起することができるという点では異なっている。

「着」は動詞と共起して連用修飾語としての文法的機能を果たすことができる。動詞の内容によっては、状態の描写にも用いられ、文法上重要な役割を果たしている。又、否定命題とも共起できることから、状態の描写の機能が広く付与されている。しかし、二文字の動詞の意味による制限を受けている。

〈テイル〉は動詞と共起して連用修飾語となる機能を付与されていないため、文末にしか来ることができない。しかし、動的状态に対しても、静的状態に対しても、強い描写の機能を果たすことができる。それで、動詞の意味による制限は基本的には持たれていない。ただ文法的機能は否定命題によって制限されている。

キーワード：動的状态 静的状態 描写 肯定命題 否定命題

#### 1. はじめに

中国語の「着」と日本語の〈テイル〉<sup>1)</sup>については、筆者はこれまで様々な観点から考察してきた。本研究では、この二語の連用修飾語に立つ場合の共起可否や、静的状態の描写の仕方や、動詞自体の意味による描写範囲の広狭及び、それらと否定命題との共起関係などについて考察することとする。

「着」と〈テイル〉には様々な用法があり、多くの共通点と相違点がある。たとえば、

- (1) 他站着吃饭。(彼は立って食べる)<sup>2)</sup>
- (2) \*彼は立っていて食べる。
- (3) 妈妈那时一只手抱着我，一副非常认真的表情盯着奶锅。(母はその時片手で私を抱きながら真剣そうな表情で牛乳が沸くの見詰めていた)(楊逸《牛奶和祖母》篠原征子編著『楊逸エッセイ中国語で読む!』所載P 5-P 6光生館2013)
- (4) 港子は今、自分の傍で寝る泰生を見つめている。(林真理子著『綺麗な生活』P 160 マガジンハウス文庫2014)
- (5) \*他否定着我的意见。(「彼は私の意見を否定し

ている」の意)

- (6) 彼は私の意見を否定している。
- (7) 别开着门!(ドアを閉めといて)
- (8) ??ドアを開けていないで。

例文(1)では、「着」は動詞と共起して、それ全体で連用修飾語として述語に係っている。(2)では〈テイル〉は、〈テイテ〉という形で連用修飾語に立つことができない。一方、「着」と〈テイル〉は、(3)と(4)のように動的状态を捉えることができるという点ではほぼ共通している。「着」は(5)のように二文字の動詞によっては使用できない場合がある。それに対し、〈テイル〉は二文字の動詞とは共起することができる。「着」は(7)で否定命題における動作・行為を捉えることもできるが、〈テイル〉は否定命題における動作・行為を捉えることができない。

「着」と〈テイル〉とは、どのように用いられ、どのような共通点と相違点を持っているのか、そして、文法的にはどのような特徴を持っているのか。本研究は「着」と〈テイル〉の文法的機能やそれぞれの用法上の制限及び文法的特徴などについて考察し、両者の共通点と相違点を究明することとする。

## 2. 先行研究

「着」については、李臨定(1985・1986)、陳平(1988)、徐丹(1992)、戴耀晶(1997)、王学群(2007)、高橋弥守彦(2007)、張黎(2012)などの研究がある。これらの研究は「着」の意味や用法を理解するのにプラスになるものであるが、ただ上記の「着」の意味・用法や文法的特徴などについてはあまり触れられていない。一方、劉一之(2001)では「着」の連用修飾語に立つ場合の意味・用法及びその文法的特徴について詳しく述べている。氏の研究では多くの資料を提供している点は評価できる<sup>3)</sup>。「着」の文法的機能を理解するためには、これまでの先行研究を踏まえながら様々な観点からの考察も不可欠だと考えている。

〈テイル〉については、藤井正(1976)、吉川武時(1976)、奥田靖雄(1977)、工藤真由美(1982)、寺村秀雄(1982)、仁田義雄(1982)、吉田妙子(2012)、江田すみれ(2013)などの研究がある。これらの研究は、〈テイル〉の諸用法についてすでに詳しく述べており、評価されるものである。〈テイル〉という接辞は様々な用法や文法的機能を有しているため、様々な観点からの考察も必要であり、深く追求していくべきである。

「着」と〈テイル〉については、対照研究の立場からこれまでの先行研究を踏まえて考察すれば、二者の共通点も相違点も明らかにすることができるのではないかと考える。それで、本研究では「着」と〈テイル〉の文法的機能や使用上の制限や共起範囲の広狭及び否定命題における意味・用法を中心に考察することとする。

## 3. 分析

### 3.1. 連用修飾語に立つ場合

#### 3.1.1. 「着」

「着」は、〈動詞1+着+動詞2〉という構造に用いられ、動詞1の状態を描写できる。たとえば、

(9) 他站着吃(着)飯。(彼は立ってご飯を食べている)

(10) \*他站吃饭。(「彼は立ってご飯を食べている」の意)

「着」は(9)で「站(立つ)」という動詞の後に来て、「站着(立っている)」という構造をもって、連用修飾語(状語)として、「吃(食べている)」という動詞を修飾している。この中で、「着」は「站(立つ)」という動的状態の持続を表わしており、それと共に述語にかかるものと考えられる。もし「着」がなかったら、(10)のように「站(立つ)」だけでは連用修飾語とはならないため、センテンス全体としては成り立たないのである。(10)では「着」は用いられていないため、「站(立つ)」という動的状態の持続は描写できず、連用修飾語としての機能を果たすことができない。「着」は動詞の後に付いて、

その動的状態の持続を表わしていると同時に、その動詞と共に連用修飾語を作る機能を持っており、動作・行為などの方法や手段や形式などを表わすことになる<sup>4)</sup>。言い換えれば、「着」は動詞1を連用修飾語として成立させるための働きを付与されており、動作・行為などの方法や手段、形式などを表わすマーカーとして、重要な文法的機能を具有しているものと考えられる。

中国語では、〈動詞1+着+動詞2〉という構造に用いられる表現として、「站着吃(立て食べる)」の他、又「坐着谈(座ってしゃべる)」「走着说(歩いて話す)」「躺着看(寝て見る)」などがある。この種類の構造は、動詞1だけでなく、動詞2にも「着」を用いることができる。たとえば、「站着吃着(立て食べている)」「坐着谈着(座ってしゃべっている)」「走着说着(歩いて話している)」「躺着看着(寝て見ている)」などがそれである。これは〈動詞1+着+動詞2+着〉という構造だと言えよう。このような場合は、「着」は動詞1と動詞2の表わす内容をそれぞれ描写し、ある姿勢を保ちながらある動作・行為が行われていることを表わしている。(1)の「他站着吃着飯」の場合は、彼が立ったままの姿勢をもって食事をしていることを表わしている。ただし、動詞1と動詞2に付く「着」は、構造内で果たされる役割を異にしている。動詞1に付く「着」は、当該動詞と共にある状態や方法・手段・形式などを表わし、それ全体で動詞2の表わす動作・行為にかかり、連用修飾語としての働きを果たしている。それに対し、動作2に付く「着」は、動作・行為の持続を表現し、当該動詞と共に述語としての働きを果たしている。つまり、「着」はいずれも動詞1と動詞2とは共起しているものの、それぞれ異なった文法的機能を果たしている。

ところが、述語に立つ「着」は、〈動詞1+着+動詞2+着〉という構造には用いられない場合もある。たとえば、「炒着吃(炒めて食べる)」「煮着吃(煮て食べる)」「蒸着吃(蒸して食べる)」「炸着吃(油で揚げて食べる)」「买着吃(買って食べる)」「分着吃(分けて食べる)」「啃着吃(かじりとって食べる)」「掰着吃(両手で割って食べる)」などの場合は、食べる手段・方法が「着」によって表現されている。〈動詞1+着〉は〈動詞2+着〉とは共存できず、「??炒着吃着(「炒めて食べている」の意)」「??煮着吃着(「煮て食べている」の意)」「??蒸着吃着(「蒸して食べている」の意)」「??炸着吃着(「油で揚げて食べている」の意)」「??买着吃着(「買って食べる」の意)」「??分着吃着(「分けて食べている」の意)」「??啃着吃着(「かじりとって食べている」の意)」「??掰着吃着(「両手で割って食べている」の意)」などのような言い方は成立しない。なぜなら、〈動詞1+着〉は所定の方法や形式を表わすため、〈動詞2+着〉との共存を排除することになるからであろう。また、常識的に考えると、この二つの動作の連続性もあまり考えられないのであ

る。上記の「站着吃着」における「站着」と「吃着」とは、同時に進行する意味もあり、またそれぞれの状態の持続を表わしている。「站着」は「吃着」の連用修飾語として用いられている。それに対し、「炒着吃(炒めて食べる)」における「炒着」は、調理の方法・手段を表わすだけで、「食べる」という動作と同時に進行することを表わすわけではない。また、「煮着吃(煮て食べる)」「蒸着吃(蒸して食べる)」「炸着吃(油で揚げて食べる)」「买着吃(買って食べる)」における「煮着(煮ている)」「蒸着(蒸している)」「炸着(油で揚げている)」は、調理の方法・手段を表わす表現だが、「分着吃(分けて食べる)」「啃着吃(かじりとりて食べる)」「掰着吃(両手で割って食べる)」における「买着(買っている)」「分着(分けている)」「啃着(両手で割っている)」は、調理の方法・手段ではなく、「食べる」という動作の方法・形式を表わす表現である。後者に類似した表現として、また「抬着走(持ち上げて歩く)」「抱着走(抱いて歩く)」「背着走(おんぶして歩く)」「推着走(押して歩く)」「拽着走(引いて歩く)」「拉着走(引っ張って歩く)」などが挙げられる。

「着」は動詞1と共に起して、動詞2を修飾する場合は、動詞1にも動詞2にも付くという点では、動詞の意味による制限を受けるものの、方法・手段などを表わす状態に対しても動作や行為などに対しても、描写することができるため、大きな文法的特徴と言える。

### 3.1.2. 〈テイル〉

〈テイル〉は、〈動詞1+テイル+動詞2+テイル〉という構造に用いることができず、〈動詞1+テ+動詞2+テイル〉という構造に用いることができるという点では、中国語の「着」と大きく異なっている。たとえば、

(11) \*彼は立っていて(ご飯を)食べている。

(12) 彼は立って(ご飯を)食べている。

日本語では助詞や助動詞などが文末に来ることもあり、命令・依頼・勧誘・意志・願望・陳述などを表わす要素が文末に現れることが多く、それらが文末に来れば来るほど文法の重要度が増すということである。〈テイル〉は接辞として動詞の後に来て、〈動詞+テイル〉の構造で動的状態と静的状態の持続を表現するのに用いられる。ところが、二つの動詞が並ぶときには、〈動詞1+テイル+動詞2+テイル〉という構造を取ることができない。というのは、日本語では、文法的機能は文末の助動詞や接辞やその他の文法的要素によって統括されており、文中における文法的機能の発揮は許容されないからである。

たとえば、(11)では、「立っている」と「食べている」という二つの動的状態が並立できないのは、「立っている」という修飾語が〈テイル〉という形を取っているからであろう。この場合は、連用修飾語としての「立っている」は「立っていて」という形を取っても、文法的には許容されない。「食べている」という文末表現としての文法形式によって統括されているからと考えられ

る。この中で、「立っている」という表現は連用修飾語として、述語としての「食べている」にかかっているのだが、そのままでは文法的機能は発揮できない。

ところが、(12)のように「立って」という形を取る場合は、連用修飾語としての文法的機能が発揮することができる。この場合は、「立って食べている」という表現になり、「立っている」という動的状態は「食べている」に「テイル」がくることによって統括されているものと理解される。このことは日本語では、状態の持続を表わす要素は、文末に来る〈テイル〉によって統括されており、連用修飾節における〈テイル〉の使用は許容されないということを裏付けることができる。それと同時に、状態の持続という文法的意味により連用修飾語としての接続の機能を優先させているということも文法的特徴として考えられる。ただし、接続の機能を優先させているため、連用修飾語としての状態の持続を表現できないという制約もある。この点では中国語と大きく異なっている。前述の通り、中国語の場合は、連用修飾語としての状態の持続も、述語としての状態の持続も、それぞれ表現することができるのに対し、日本語の場合は述語としての状態の持続は鮮明に表現できるが、連用修飾語としての状態の持続は鮮明には表現できない。

中国語の「站着吃着(立て食べている)」「坐着谈着(座ってしゃべっている)」「走着说着(歩いて話している)」「躺着看着(寝て見ている)」に対応する表現は日本語にはない。また、「炒着吃(炒めて食べる)」「煮着吃(煮て食べる)」「蒸着吃(蒸して食べる)」「炸着吃(油で揚げて食べる)」などに対応する表現も見られない。中国語の「着」は、連用修飾語と述語の表わす動的状態と静的状態をいずれも捉えることができるという点では、〈テイル〉と根本的に異なっている。ただどの表現も述語の表わす動的状態を捉えることができるという点では、大きな文法的特徴だと言えよう。この点では、「??炒着吃着(「炒めて食べている」の意)」「??煮着吃着(「煮て食べている」の意)」「??蒸着吃着(「蒸して食べている」の意)」などのような述語に立つ動詞に「着」は用いられないという用法とも違っている。

中国語の連用修飾節における状態描写は可能であり、また、述語における状態描写と共に起することができるが、日本語の連用修飾節における状態描写はできず、述語における状態描写しかできないという点では、両言語は大きく異なっている。

## 3.2. 状態描写の機能

### 3.2.1. 「着」

「着」は一部の動作や状態を共に表せる動詞の後に付いて、静的状態の描写に用いることができる。この場合は、「着」の有無によっては、センテンスの成立可否にまで影響することもある。

動詞の中にはそのままでは動的状態を表わすが、「着」が来る場合には、静的状態を表わす動詞がある。

- (13) 医生看着我那只连着一根筋的舌头。(医師は私の一つの筋だけでつながっていた舌を見詰めている)
- (14) ??医生看着我那只连一根筋的舌头。(「医師は私の一つの筋だけでつながっていた舌を見詰めている」の意)

「着」は(13)において、「连(連ねる)」という動詞に「着」が付くことによって、一つの筋だけで繋がっていたという静的状態を描写している。そして「着」が付かない場合は、繋がっていたという静的状態は描写することができないし、また表現としても落ち着かなくなる。「连」は動詞として動的状態と静的状態のいずれも表わすことができる。たとえば「连成一排(～を一列に連ねる)」「连结(連結する)」などのような動的状態を表わすことができる。このように「着」が付かない場合は、「连」は動的状態を表わすことになる。また動的状態を表わす場合はあるが、文脈によってその静的状態を表わす場合には、「着」との共起が必要になってくる。即ち、「着」は「连」に付くことによって、その静的状態を描写することができて、落ち着いた表現となる。

「连(連ねる)」という動詞の他にも、また、「抱(抱く)」「背(隠れる)」「排(並べる)」「流(流す)」「盯(見詰める)」「张(開ける)」「穿(着る)」「指(指す)」「躺(寝る)」なども挙げられる。これらの動詞は文脈によって「着」との共起が必要になってくるという点では、「连(連ねる)」という動詞と全く同じである。たとえば、

- (15) 妈妈那时一只手抱着我，一副非常认真的表情等着奶锅。(母はその時片手で私を抱きながら真剣そうな表情で牛乳が沸くのを待っていた。)
- (16) 我们跑到一个“安全的地方”，背着大人，大吃一通。(私達は「安全な場所」まで走っていき、大人に隠れて思うぞいぶん食べた)(『楊逸エッセイ中国語で読む！』P 12)
- (17) 大年初一，我们穿上有两个大兜的新衣服，排着长队去拜年。(元旦になると、私達は新しい服を着て、長い行列を作って新年の挨拶に行く)(『楊逸エッセイ中国語で読む！』P 13)
- (18) 我大概也一定是流着口水，跟母亲同样一副认真的表情盯着奶锅吧。(私も涎を垂らしながら母と同じような真剣そうな表情で牛乳の鍋を見詰めていたに違いない)(『楊逸エッセイ中国語で読む！』P 6)
- (19) 整整一夜我都是张着嘴睡的。(私は一晩中ずっと口を開けて寝ていた)(『楊逸エッセイ中国語で読む！』P 18)
- (20) 他们像看怪物一样用手指着笑话我。(彼ら

は怪物を見るように私を指差しながらからかっていた)(『楊逸エッセイ中国語で読む！』P 29)

- (21) 天黑了，母亲只好把我带回家，让我仰面躺着。(暗くなり、母は仕方なく私を家に連れ戻して、私を仰向きに寝させていた)(『楊逸エッセイ中国語で読む！』P 18)

この中における「抱着(抱いている)」「背着(～に隠れる)」「排着(並べている)」「流着(流している)」「盯着(見詰めている)」「张着(開けていた)」「指着(指差している)」「躺着(寝ている)」は、それぞれ静的状態を表わすことになり、「着」との共起は不可欠である。

もしこの種類の動詞は「着」と共起しない場合は、その静的状態を表現することができない。「??妈妈当时一只手抱我，一副非常认真的表情等着奶锅(「母はその時片手で私を抱きながら真剣そうな表情で牛乳が沸くのを待っていた」の意)」「??我们跑到一个“安全的地方”，背大人，大吃一通(「私達は安全な場所まで逃げ、大人に隠れて思う存分食べていた」の意)」「??大年初一，我们穿上有两个大兜的新衣服，排长队去拜年(「元旦になると、私達は新しい服を着て、長い行列を作って新年の挨拶に行く」の意)」「??我大概也一定是流口水，跟母亲同样一副认真的表情盯着奶锅吧(「私も涎を垂らしながら母と同じような真剣そうな表情で牛乳の鍋を見詰めていたに違いない」の意)」「整整一夜我都是张嘴睡的(「私は一晩中ずっと口を開けて寝ていた」の意)」「他们像看怪物一样用手指笑话我(「彼らは怪物を見るように私を指差しながらからかっていた」の意)」「天黑了，母亲只好把我带回家，让我仰面躺(「暗くなり、母は仕方なく私を家に連れ戻して、私を仰向きに寝させていた」の意)」などがそれである。

この種類の動詞はある静的状態を表わすためには、「着」の助けを借りなくてはならない。そして「着」との共起によって、その静的状態を鮮明に描写することができる。また「着」は静的状態を描写できるだけの文法的機能を持っているだけでなく、センテンス全体を成立させるための働きをも持っている。従来の研究ではこの点についてはあまり指摘されてこなかったが、この点は「着」は助詞<sup>5)</sup>として、動的状態と静的状態を共に表わす動詞(たとえば「抱」「背」「排」「流」「张」「穿」など)については、その静的状態を描写できるための独自の文法的機能を持っているのである。そのため、「着」がないと、その静的状態は表現できないし、また、その静的状態を表わすセンテンスも成立することができないということである。

このように動詞の意味による「着」との密接な関係があるのは、静的状態を表わす時には「着」との依存関係を保持しているものと考えられる。該当動詞と「着」との相互依存による静的状態の描写は、「着」の助詞としての重要な文法的機能の一つである。また、静的状態

を表わす時には共起しなくてはならないということが「着」の著しい文法的特徴でもある。「着」はその動詞との共起によって文法的機能を発揮してこそはじめて静的状態を鮮明に描写し、その静的状態の存在を端的に強調することができる。

### 3.2.2. 〈テイル〉

〈テイル〉は、状態描写の機能を持っているため、動的状态と静的状態の表現のいずれも成立できる。

(22) 港子は今、自分の傍で寝入る泰生を見つめている。(林真理子著『綺麗な生活』P 160 マガジンハウス文庫 2014)

(23) 母は仕方なく私を家に連れ戻して、私を仰向きに寝させている。

日本語では、動的状态と静的状態を描写する場合は、〈テイル〉によって表現することができるが、その一方で他の助動詞などによる表現も許容されている。この点では中国語の「着」とは根本的に異なっている。

(24) ことばが乱暴だけれども、唇の端が悪戯っぽく上がるのを港子はうっとり見つめた。(林真理子著『綺麗な生活』P 162 マガジンハウス 2014年9月)

(25) 母は仕方なく私を家に連れ戻して、私を仰向きに寝させた。

(26) 一晩中ずっと口を開けて寝た。

(27) 私達は新しい服を着て長い行列を作った。

(28) 私達は「安全な場所」まで走っていき、大人に隠れて思う存分食べた。

この中における「見つめた」「ねさせた」「寝た」「作った」「食べた」は、いずれも「動詞+助動詞〈タ〉」という形を取っている。また、「見詰めていた」「寝させていた」「寝ていた」「作っていた」「食べていた」などのように、〈テイタ〉という語形もとることができる。「動詞+テイル」という形を取らなくても、他の文法的要素や他の語形による構成も成立するという点では、中国語の場合とは異なっている。

中国語は孤立語として語尾変化のない言語である。中国語の動詞はそのまま変化しないままで動作・行為や状態・事象などを表現するのに用いられるが、静的状態の持続を表現する時には、「着」との共起が必要になってくる。即ち、当該動詞はそれだけでは、静的状態を鮮明に表現することができない。「着」との共起によってはじめてその静的状態の持続を鮮明に表現することができる

「連(連ねる)」「抱(抱く)」「背(隠れる)」「排(並べる)」「流(流す)」「盯(見詰める)」「张(開ける)」「穿(着る)」「指(指す)」「躺(寝る)」などの動詞は、動的状态と静的状態のいずれも表現することができるが、「着」と共起する場合は、その静的状態を強調することになるため、「動詞+着」という構造が求められ、二者の相互依存と緊密な結合が必要になってくるのである。その静

的状态の持続が保たれないと、その出来事の発生も当然あり得ないということになる。その静的状態の持続を表現するのが「着」の役割である。したがって、中国語では「着」は極めて重要な文法的機能を持つ助詞として静的状態の描写を担っている文法的要素であると考えられる。

それに対し、日本語は形態の発達した言語であり、動詞には活用による語尾変化もあり、様々な文法的要素を受け入れることが可能である。そして、〈テイル〉は状態の描写に用いることはできるが、動詞に対しては必要不可欠な文法的要素ではないという点では、中国語と大きく異なっている。日本語は形態が発達した言語として、様々な文法的要素との共起も許容され、ひとつの特定の語形に束縛されるようなことは考えられない。そのため、〈見つめている〉〈見つめていた〉〈見つめた〉などの表現は自然な表現として成立しているというわけである。

〈見つめている〉は目の前に存在している動的状态或いは静的状態である。〈見つめていた〉は話者が捉えた時点においてすでに存在していた動的状态或いは静的状態であり、動的状态が静的状態に拘らず、〈テイル〉〈テイタ〉によって描写することができる。〈見つめた〉という表現は主として動的状态を描写し、静的状態を詳細に描写できないという点では、〈見つめている〉〈見つめていた〉と区別できる。このように、この三つの表現の違いはあるものの、センテンスの成立にまで影響するようなことは考えられない。この点は日本語の形態表現のひとつの特徴であり、又、中国語と大きく異なった点と言える。

〈見つめている〉〈見つめていた〉に対応すると見られる中国語の「盯着」は、強い描写性を持っているという点ではそれらと共通している。しかし、〈見つめた〉の〈タ〉に相当すると見られる「了」は、「\*盯了奶锅(「牛乳の鍋を見つめた」の意)」のように用いることができない。また、このような文脈では、上述した「连(連ねる)」「抱(抱く)」「背(隠れる)」「排(並べる)」「流(流す)」「盯(見詰める)」「张(開ける)」「穿(着る)」「指(指す)」「躺(寝る)」などの動詞は、いずれも「了」とは共起することができない。たとえば、

(29) \*妈妈那时一只手抱了我，一副非常认真的表情盯着奶锅。(「母はその時片手で私を抱きながら真剣そうな表情で牛乳が沸くのを見詰めていた」の意)

(30) \*我们跑到一个“安全的地方”，背了大人，大吃一通。(「私達は「安全な場所」まで走っていき、大人に隠れて思う存分食べた」の意)

(31) \*大年初一，我们穿上有两个大兜的新衣服，排了长队去拜年。(「元旦になると、私達は新しい服を着て、長い行列を作って新年の挨拶に行く」の意)

- (32) \*我大概也一定是流了口水、跟母亲同样一副认真的表情盯了奶锅吧。(「私も涎を垂らしながら母と同じような真剣そうな表情で牛乳の鍋を見詰めていたに違いない」の意)
- (33) \*整整一夜我都是张了嘴睡的。(「私は一晩中ずっと口を開けて寝ていた」の意)
- (34) \*他们像看怪物一样用手指了笑话我(「彼らは怪物を見るように私を指差しながらからかっていた」の意)
- (35) \*天黑了、母亲只好把我带回家、让我仰面躺了。(「暗くなり、母は仕方なく私を家に連れ戻して、私を仰向きに寝させていた」の意)

中国語の「了」は、動的状態の実現や静的状態の変化を表わす助詞であり、日本語の〈夕〉と共通しているが、動的状態と静的状態の持続を表現することができないという点では日本語の〈夕〉と違っている。「了」と〈夕〉とは共通点も相違点もある。中国語では、状態の持続を描写するため、「着」との共起が必要である。この点から考えれば、「着」と「了」はそれぞれ異なった文法的機能を付与されているため、互いを置き換えることができない。「了」は状態の持続を表現できないという点では「着」と違っている。

中国語では、「着」と「了」の役割分担が異なっているため、互いに置き換えることができない用法がある。状態の描写が必要な場合は、「着」によって表現することができる。この場合は「了」とは置き換えることはできない。「了」は「着」と異なっているだけでなく、対応していると見られる〈夕〉とも異なっている。それに対し、日本語では、〈テイル〉〈テイタ〉〈夕〉などの形態によるセンテンスの成立への影響は考えられず、形態の多様化受容が可能になっているし、動詞の意味による制限もあまり受けられないものと考えられる。

### 3.3. 描写範囲の広狭

#### 3.3.1. 「着」

「着」は、動作や行為・状態を表わす動詞を捉えることができるが、態度や立場を表わす動詞、状況や抽象的な行為を表わす動詞及び出現や結果を表わす動詞を捉えることができない。特に上記の意味を表わす二文字の動詞を捉えることができない。たとえば、

- (36)??大家都赞成着这个方案。(「みんながこの法案に賛成している」の意)
- (37)??我们都尊重着老师。(「私達はみんな先生を尊敬している」の意)

「着」は動的状態と静的状態を捉えるだけの文法的機能を持っているという点についてはすでに述べた通りである。態度や立場を表わす動詞、ある状況や抽象的な行為を表わす動詞及び出現や結果を表わす動詞を捉えることはできない。(36)(37)における「赞成」「尊重」は態度や立場を表わす動詞として、動的状態とも静的

状態ともいえず一種の姿勢を表わすため、「着」によっては捉えることができない。「着」は動的状態と静的状態を捉えることはできるものの、態度や立場を表わす動詞、状況や抽象的な行為を表わす動詞及び出現や結果を表わす動詞によって表現されている姿勢・状況・結果などは、把握の対象とすることができない。特に、「赞成」「尊重」のような二文字の動詞は「着」とは共起することができない。この点から考えると、中国語では、このような二文字の動詞は、そのままの形で一種の姿勢や状況あるいは結果を表現することができるため、その他の文法的手段に頼ることは想定できない。そのため、「着」と共起することの必然性も考えられない。つまり、このような二文字の動詞は単なる動的状態とも静的状態ともいえず性質のものであり、「着」による描写を受けることはできない。

このような二文字の動詞は以下のようなものが挙げられる。

a 態度や立場を表わすもの：同意(同意する)、拥护(擁護する)、赞成(賛成する)、反对(反対する)、否定(否定する)、拒绝(拒絶する)、尊敬(尊敬する)、尊重(尊重する)、尊崇(尊崇する)、抛弃(捨てる)、道歉(謝る)、结婚(結婚する)、离婚(離婚する)、讲究(重んじる)、害怕(怖がる)、喜欢(好む)、相信(信じる)

b 状況や抽象的な行為を表わすもの：测试(テストする)、发明(発明する)、告诉(知らせる)、规定(規定する)、揭发(摘発する)、夸大(大げさに言う)、夸张(誇張する)、冒充(成りすます)、帮助(助ける)、包括(含む)、统一(統一する)、建立(作り上げる)、明白(分かる)、明确(はっきりさせる)、侵略(侵略する)、庆祝(慶祝する)、提倡(提唱する)、违反(違反する)、证明(証明する)

c 出現や結果を表わすもの：出来(出てくる)、表现(表現する)、发生(起こる)、发现(発見する)、毕业(卒業する)、失败(失敗する)、达到(達する)、说服(説得する)、提拔(抜擢する)、开除(除名する)、批准(批准する)、禁止(禁止する)<sup>6)</sup>

これらの動詞は、意味的には態度や立場を表わす動詞もあれば、状況や抽象的な行為を表わす動詞もある。また、出現や結果を表わす動詞もある。共通点としては、いずれも具体的な動作や状態を表わす動詞ではないという点である。これら二文字の動詞はさらに実現を表わす助詞「了」と共起できる動詞と、共起できない動詞に分けることができる。たとえば、「说服(説得する)」「结婚(結婚する)」「离婚(離婚する)」「测试(テストする)」「发明(発明する)」「告诉(知らせる)」「规定(規定する)」「揭发(摘発する)」「夸大(大げさに言う)」などは「了」と共起できるのに対し、「反对(反対する)」「尊敬(尊敬する)」「尊重(尊重する)」「尊崇(尊崇する)」「提倡(提唱する)」などは「了」と共起できない。前者は実現や変化を表わす場合は、助詞「了」と共起し、その

状況の変化や実現を表わすことになる。一方、後者は、一種の姿勢や抽象的な行為を表わすため、助詞「了」との共起は想定できない。そして、この二種類の動詞はいずれも抽象的な意味を表わすだけに止まり、具体的な動作や状態を表わさないという点では共通している。また、「着」と共起できないという点においても全く共通している。

中国語では、このような二文字の動詞はそれだけでも態度や立場、状況や抽象的な行為及び結果などを表わすことができるため、「着」との共起は許容されないのである。この点は中国語の多数の抽象的な意味を持つ二文字の動詞の特徴であり、また、「着」によっては捉えられない対象外の動詞の特徴でもとも言える。

### 3.3.2. 〈テイル〉

〈テイル〉は、二文字の動詞(サ変動詞)を捉えることができるという点では、中国語の「着」と大きく異なっている。たとえば、

(38) 布団は再び動かなくなった。テレビの時刻は十時二十分を表示している。(林真理子著『下流の宴』P 492 文春文庫2013年1月)

(39) 「大丈夫。僕たちはプロなんだよ。あの偏差値の高校を出て、社会に出て四年たっている人の学力はちゃんと把握している。～」(林真理子著『下流の宴』P 318 文春文庫2013年1月)

日本語では、動詞の意味による制限を受けることは考えられない。なぜなら、日本語の動詞には活用があり、動詞の種類が異なっても、いずれも〈テイル〉と共起することができる。中国語における「同意(同意する)」「拥护(擁護する)」などのような二文字の動詞はもとより、その他の種類の動詞も〈テイル〉と共起するという点では、中国語の「着」と大きく異なった点と言える。

中国語の「同意」「拥护」「赞成」「反对」「否定」「拒绝」「尊敬」「尊重」「尊崇」「抛弃」「道歉」「结婚」「离婚」「讲究」「害怕」「喜欢」「相信」に対応すると見られる〈同意する〉〈擁護する〉〈賛成する〉〈反対する〉〈否定する〉〈拒絶する〉〈尊敬する〉〈尊重する〉〈尊崇する〉〈捨てる〉〈謝る〉〈結婚する〉〈離婚する〉〈怖がる〉〈重んじる〉〈好む〉〈信じる〉と、「测试」「发明」「告诉」「规定」「揭发」「夸大」「夸张」「冒充」「帮助」「包括」「统一」「建立」「明白」「明确」「侵略」「庆祝」「提倡」「违反」「证明」に対応すると見られる〈テストする〉〈発明する〉〈知らせる〉〈規定する〉〈摘発する〉〈大げさに言う〉〈誇張する〉〈成りすます〉〈助ける〉〈含む〉〈統一する〉〈作り上げる〉〈はっきりさせる〉〈侵略する〉〈慶祝する〉〈提唱する〉〈違反する〉〈証明する〉と、「表示」「表现」「发生」「发现」「毕业」「失败」「达到」「说服」「提拔」「开除」「批准」「禁止」に対応すると見られる〈表示する〉〈表現する〉〈発生する〉〈発見する〉〈卒業する〉〈失敗する〉〈到達する〉〈説得する〉〈抜擢する〉〈除名する〉〈批准する〉〈禁止する〉などは、いずれも〈テイル〉と共起することができる。

日本語では、このような二文字のサ変動詞はいずれも活用形を有しているため、様々な文法的要素を受け入れることができるものと考えられる。サ変動詞は、態度や立場を表わす動詞であっても、状況や抽象的な行為を表わす動詞であっても、また、出現や結果を表わす動詞であっても、〈連用形「シ」+接続助詞「テ」=シテ〉という形式によって文法的に統一されている。それで、〈テイル〉はこれらのサ変動詞を文法的に捉えることができる。この点から考えると、〈テイル〉は動詞自体の意味による影響を受けることは想定できない。主として〈スル〉という語尾にかかわり、その動詞が表わしている状態を描写することになる。言い換えれば、二文字のサ変動詞はどの意味を表わしているのかには関わらず、その文法的法則によって〈テイル〉を受け入れることができるということである。日本語では文法的要素の受容可否は動詞自体の意味によるものではなく、動詞の語尾によるものである。この点は粘着語としての日本語の著しい文法的特徴のひとつだと言える。また、孤立語としての中国語とは根本的に異なっている点でもある。

「着」は動詞自体の意味による影響を受けており、上記のような二文字の動詞を捉えることができないため、描写の対象は制限されているのに対し、〈テイル〉は、動詞自体の意味による影響を受けることはほとんどなく、上記のような二文字のサ変動詞の形によって捉えることができるため、動詞自体の意味より文法的機能を優先させているという文法的特徴を持っていると考えられる。

## 3.4. 否定命題

### 3.4.1. 「着」

「着」は、否定命題と共起することができる。ただし、否定命題を捉えるわけではなく、それによって捉えられることになる。たとえば、

(40) ??不开着门。(「ドアが開いていない」の意)

(41) 没开着门。(ドアが開いていない)

(42) 别开着门!(ドアを閉めといて!)

中国語では、否定命題を表わす副詞には「不(～しない)」「没(～していない)」「别(～しないで)」などがある。「不(～しない)」は打消しを表わす副詞として、これから動作や行為をしたり、状態が起こったりしないことを表わす。今までの動作・行為や現在継続中の動作・行為及び現在起こっている状態などを否定するのに用いられる。ところが、「着」が用いられた場合は、(40)のように「不(～しない)」だけでは自然な表現とは言えない。これは、状態の持続を表わす場合は他の文法的要素が必要だからである。「不开着门就进不去(ドアが開いていなかったら、入っていけない)」「不等着他来就走不合适(彼が来るのを待たずに行くのはだめだ)」などのように、複文の中に用いられた場合は共起

が可能である。ただこのような場合も、「不～就～(～せずに～する)」という文型に用いられているだけであり、「着」は直接「不」によって拘束されているとは考えられない。つまり、「着」は否定命題には用いられるが、直接否定命題によって捉えられる対象とはならないということである。そのため、「着」は直接には「不」とは関わらないのである。

一方、「没(～していない)」「別(～しないで)」は、副詞として「着」を修飾することができる。「没」は、動作・行為が実現されなかったり、状態が起こらなかったりすることを表わすため、「着」と共起することによって、動作・行為や状態が実現されていないことを示すことができる。(42)の場合は、ドアが開いているという状態を否定している。このような表現は他に、「没等着我(私を待っていない)」「没看着电视(テレビを見ていない)」「没玩着手机(スマートフォンを弄んでいない)」「没开着空调(冷房のスイッチを入れていない)」「没饿着肚子(お腹を空かせていない)」「没板着脸(顔を強張らせていない)」などがある。そして、「別」は主としてこれから行われる動作・行為や起こる状態を否定するのに用いられるため、命令・依頼・勧誘・注意・警告などの表現とよく共起する。たとえば、「别等着!(待たないで)」「别饿着!(お腹を)空かせないで)」「别板着脸!(顔を強張らせないで)」「别仰着身子!(仰向きにしないで)」「别低着头!(頭を下げないで)」「别驮着背(背中を丸めないで)」「别淋着!(濡らさないで)」「别烫着(やけどしないように)」「别冻着(風邪を引かないように)」などがそれである。

否定命題の場合、「着」と「不」との共起は許容されているが、共起条件が付いている。この点は「着」が持続した状態を表現するのに対し、「不」は単純な動作・行為や状態の否定を表わすからである。「没」は持続した状態の否定を表わすことができるため、「着」と共起しやすく、客観的な表現として否定の描写に用いられている。そして、「別」は、主観的な表現として、未来の状態の持続が行われぬよう聞き手への勧誘に用いられるため、「着」と共起することができるのである。

「着」は否定命題において、「没」「別」によって把握されることになる。「不」は条件付で共起できるが、それによる把握の対象とはならない。

### 3.4.2. 〈テイル〉

〈テイル〉は、否定命題において打ち消し助動詞の〈ナイ〉によって捉えられることができる。しかし、否定命題については捉えることはできない。たとえば、

(43) a ドアが開いていない/空いていなかった。

b ドアを開けていない/ドアを空けていなかった。

(44) ドアを開けないで。

(45)?? ドアを開けないでいて。

(46)?? ドアを開けていないで。

〈テイル〉は(43)では〈ナイ〉によって捉えられており、動的状態と静的状態が持続していないことを表わしている。(43)aは静的状態が持続していないことを表わしているが、(43)bは動的状態が持続していないことを表わしている。また〈ナカッタ〉という過去形による描写もできる。この二者はテンス表現は異なるものの、いずれも状態が持続していないことを描写しているという点では共通している。また、この点では中国語の「着」とほぼ同じである。

ところが、否定の勧誘を表わす場合は、〈テイル〉は〈ナイ〉とは共起しにくくなる。(44)は何々をしないように勧誘する時には、よく行われる表現であるが、〈テイル〉との共起は許容されない。「ドアを開けないで」に相当すると見られる中国語は「别开门(ドアを開けないで)」であり、ドアを開けていないという状態にはなっていない。中国語では、「别开着门(ドアを開けていないという状態にして/閉めといて)」の場合は、ドアを開けていないという状態にしてほしいという意味を表わしている。

それに対し、日本語では、それに対応すると見られる表現は(45)(46)のように、不自然である。また類似した表現として他に、「ドアを閉めないでいて」「お腹を空かせないでいて」「顔を強張らせないでいて」「仰向けしないでいて」「ドアを閉めていないで」「お腹を空かせていないで」「顔を強張らせていないで」「仰向けていないで」などがある。これらの持続表現は〈ナイ〉との共起が許容されず、命令や依頼・勧誘などの表現には用いられにくいのである。

日本語では、〈テイル〉は助動詞の〈ナイ〉と共起する場合は、陳述表現に止まり、命令や依頼・勧誘などの表現とはあまり関わらないのである。ただし、「僕を待たないでいて」「僕を待っていないで」「黙らないでいて」「黙っていないで」のように、やや不自然な感じはするものの、勧誘の表現として用いられる場合はある。だが、これは限られた表現であり、一般化した表現とは言えない。「僕を待たないで」と「僕を待っていないで」とは表わされる意味が異なっている。前者は待つか待たないかを視野に待たないよという意味であり、後者は待っているか待っていないかを視野に待っている状態にならないよという意味である。

「僕を待っていないで」という表現は、「别等着我(僕を待っていないで)」という中国語の表現に対応しているものと見られる。中国語では「别等着我(僕を待っていないで)」のような表現は一般化した依頼の表現であるが、日本語の「ドアを閉めないでいて」「お腹を空かせないでいて」「顔を強張らせないでいて」「仰向けしないでいて」「ドアを閉めていないで」「お腹を空かせていないで」「顔を強張らせていないで」「仰向けていないで」などは落ち着いた表現だとは言えないため、「僕を待っていないで」のような表現は非常に限られた勧誘

の表現である。

そのため、〈テイル〉は、否定命題において依頼表現・勧誘表現などの場合は成り立たないという点では中国語の「着」と異なっている。即ち、「着」は否定命題においても命令表現や依頼表現・勧誘表現などの場合にも用いられ、動的状態と静的状態を描写する文法的機能をいずれも果たすことができるのに対し、〈テイル〉は否定命題においては陳述表現によって動的状態と静的状態の持続を描写するだけに止まり、命令表現や依頼表現・勧誘表現などの場合はあまり機能することができない。この点は〈テイル〉と「着」の大きな違いであると言える。

#### 4. まとめ

両語は、動的状態と静的状態をいずれも描写することができるという点では、大体共通しているが、連用修飾語にも用いられ、否定命題とも共起できるという点では、「着」は〈テイル〉と異なっている。

「着」は動詞と共起して連用修飾語としての文法的機能を果たすことができる。又、動詞の内容によっては、状態の描写にも用いられ、文法上重要な役割を果たしている。又、否定命題とも共起できることから、状態の描写の機能が広く付与されており、様々な状態の表現に用いることができる。しかし、態度や立場・結果などを表わす二文字の動詞に対してはそれらと共起できないため、動詞の意味による制限を受けていると考えられる。

〈テイル〉は動詞と共起して連用修飾語となる機能を付与されていないため、述語の前に用いられることもなく、文末にしか来ることができない。しかし、動的状態に対しても静的状態に対しても広い視野があり、強い描写の機能を果たすことができる。それで動詞の意味による制限は基本的には持たれていない。また、姿勢や立場・状況・抽象的な意味を表わす動詞に対しても捉えることができる。ただ勧誘や依頼などの表現の場合は、否定命題とはあまり共起せず、文法的機能は否定命題によって制限されているということになる。

#### 注

- 1) 本研究では中国語の考察語は「      」、日本語の考察語は〈      〉で示す。例文に挙げられた考察語については下線を引く。以下同じ。
- 2) ここに挙げた作例の共起の可否については、中国語は筆者の語感によるものであるが、日本語は日本人話者を実施したアンケート調査の結果によるものである。なお、訳文は筆者によるものである。
- 3) 本研究と関係した論考は数多くあるが、紙幅の都合上一々挙げるができない。参考文献についても本研究と直接関係のある論考だけを挙げておく。

- 4) この点については、劉一之(2001)は詳しく述べている。同P 131~139を参照されたい。
- 5) 中国語ではアスペクトを表わす「着(テイル)」「了(タ)」「过(タコトガアル)」は助詞として分類されている。
- 6) ここに挙げた二文字の動詞の一部は侯学超(1998)でも「着」と共起できる動詞として挙げられているが、詳しく分析はなされていない(P 738)。

#### 参考文献

- 中国語  
 北京大学中文系1955・1957級語言班(1982)《現代漢語虛詞例釋》商務印書館  
 陳平(1988)「論現代漢語時間系統的三元結構」《中國語文》第六期  
 戴耀晶(1997)《現代漢語時體系統研究》浙江教育出版社  
 房玉清(1992)《實用漢語語法》北京語言學院出版社  
 費春元(1992)「說“着”」《語文研究》第二期  
 侯學超(1998)《現代漢語虛詞詞典》北京大學出版社  
 金立鑫(2004)「“着”“了”“過”時體意義的對立及其句法條件」《第七屆國際漢語教學討論會論文選》北京大學出版  
 劉一之(2001)《北京話中的“着”(zhe)字新探》北京大學出版社  
 呂叔湘主編(1984)《現代漢語八百詞》商務印書館  
 石毓智(2006)「論漢語的進行體範疇」《漢語學習》第三期  
 王學群(2007)「中國語の“V着”に関する研究」白帝社  
 徐丹(1992)漢語里的“在”与“着”(著)《中國語文》第六期  
 張黎(2012)《漢語意合語法研究——基於認知類型和語言邏輯的建構》白帝社
- 日本語  
 奥田靖雄(1977)「アスペクトの研究をめぐって—金田一的段階—」『宮城教育大學國語國文』8  
 金田一春彦(1950)「國語動詞の一分類」金田一春彦編(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房  
 工藤真由美(1982)「シテイル形式の意味記述」武蔵大學『人文學會雜誌』13卷4号  
 江田すみれ(2013)「『ている』『ていた』『ていない』のアスペクト」くろしお出版  
 寺村秀夫(1982・2003)『日本語のシンタクスと意味』II くろしお出版  
 仁田義雄(1982)「動詞の意味と構文——テンス・アスペクトをめぐって——」『日本語学』1卷2号  
 藤井正(1976)「『動詞+ている』の意味」金田一春彦編(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房  
 吉川武時(1976)「現代日本語動詞のアスペクトの研究」金田一春彦編(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房  
 吉川妙子(2012)『日本語動詞テ形のアスペクト』晃洋書房

#### 謝辞

本研究の表現については筆者の学部時代の恩師であり、愛媛大学教育学部元教授の菊川國夫先生にご教示を賜りました。ここに謹んで感謝の意を表します。なお、本研究は平成29年度大学教育研究重点配分経費を受けて発表した成果の一部です。関係各位に厚くお礼を申し上げます。次第です。

(2017年9月25日受理)